

## 記念講演

# 世界から見た日本の現実

—私たちの将来はどうなるの?—

詩人・随筆家

アーサー・ビナード さん



### ●池袋の日本語学校

今日は文化の日です。「文化」という言葉はずっと「うさんくさい言葉だなあ」と思って、長いこと「文化」という単語を避けて日本語を使っていました。

英語の中で生まれ育って、22歳の時、日本に来日し、池袋にたまたま泊まる場所が見つかって、外人ハウスという、公に届け出ている施設ではなくて、あるアメリカ人が1軒の家を池袋の外れに借りて、それを保証人もいないどこの馬の骨かわからない外国人に、国籍問わず滞在

する宿泊先として、場合によっては1か月、2か月、半年いてもいいという形で、アメリカに生まれ育って、日本に住み着いた人が、外人ハウスをやっていた。

たぶん日本各地にあったと思います。大学の先輩がそういうところがあるよと教えてくれて、成田に着いたら、先輩から教えてもらったアメリカ人に公衆電話からかけて、池袋だったら空いているよと言われ、「池袋のスペル教えてください」と聞いて、リムジンバスのチケット売り場に行って、池袋行きがあるとわかって

池袋に着いた。

日本のことを前もって調べたりしていたら、池袋じゃなくて違うところを目指していたかも。まあ、池袋に住み着いたおかげで、今の自分の人生が大きな意味を持った出会いがたくさんありました。その中でも一番大きかったのは池袋の日本語学校です。

池袋に泊まって、次の日アルバイト先と日本語を勉強する場所を探そうと、たまたま池袋の北口駅前にあった日本語学校「東京ランゲージスクール」を見つけてそこに入って、市川ノブコ先生にお世話になりました。市川先生は日本の詩を書いたり、日本語から英語に翻訳したり、僕がやりたかった日本文学に精通していて、今の僕にとって大事な詩人を紹介してもらいました。その市川先生と出会ったのも、元をたどれば外人ハウスのお蔭でした。

今朝、ここに来る前に清瀬の東京病院に行って、市川先生のお見舞いをしてきました。24年前に日本語を学び出した時にお世話になった先生に今日会ってきました。市川先生は野火止に住んでいました。だから”野火止”が読めた。

### ● 「Culture」と「文化」

ある日の授業の中でカルチャーという言葉、英語で言うと「Culture」ですが、日本語に置き換えると「文化」という話が出てきた。市川先生から教わった単語です。僕は「文化」という言葉に出くわした時に、どう考えても、自分の頭の中でギャップが大きすぎた。「Culture」と「文化」が抱え持っている世界が、僕に

とってあまりにも違うものだったので、「文化」っていうのはうさんくさいなあと思った。

先生に何度も Culture=文化でいいのかと確かめた。カタカナでカルチャーともいうが、カタカナのものは軽いかなあ。カルチャーセンターとか日本文化センターとか、ますますうさん臭い、「文化」って何なんだろうって。

### ● 「Culture」は発酵菌

「Culture」って元々ラテン語から来ているもので、コントローラーという。ラテン語・英語にもなっている「Culture」は色々な豊かな意味を、多様性に富んだ意味を抱えている。どういうものがあるかという、今日ここに来る途中、畑で大根を立派に育てていた、その仕事がまさに土の Culture「農業」。植物を育てること。

色々な Culture があり、ラテン語の言葉を大事な根幹を頭に付けて〇〇 Culture というと、人間の全ての営みが語れるくらいの多様性がある。Culture は何かというと、元々のラテン語の意味は「育てる」という意味。人間がゼロから作ることは出来ないけれど、種が成長して立派に作物や木になっていく。

果物に手を貸して育てていくのも Culture。培養することも Culture。植物動物だけでなく、菌類も豊かな発酵する生き物も Culture。人間が色々なことをやって、生活の中から豊かな言葉を生み出して、歌や文学や絵になったり、音楽・演劇・織物のようなクラフト的なものも、すべて人間が生み出すものが Culture。家

で朝欠かさず世話になっている納豆 Culture やチーズ Culture、ヨーグルト Culture。ある種の菌を生かして繁殖することを Culture といいます。

Culture は生き物が育って反映していくことを言う。無数の生き物の営みが見えてくるのが Culture。そんな豊かな Culture=文化がよくわからない。生き物の多様性が感じられないので使うことを避けてきた。しかし、文化出版、文化放送、文化ホール、文化センター…など避けられなかった。

自分がやっている仕事は「文化」と切り離せなくて、今日のタイトルは「世界から見た日本の現実—私たちの将来はどうなるの」と、いたって真面目なタイトルを付けてもらったが、10年前は「異文化を語る」というタイトル。そもそも文化を信じていないのに異文化って。

### ●「文化」も発酵菌

数年前、日本文化について書いてほしいと言われ苦しんでいたが、原稿をぱっと見た時に言葉が化けた。”文が化ける”。文は何かという言葉。その時始めて言葉が化けることが文化だと気がついた。言葉が化けると文化を生み出す作用になる。そこで一瞬にしてここで Culture が文化と繋がった。

Culture は発酵・培養・成長していくという意味。日本酒は2回も発酵する。日本の食文化は発酵。醤油は食文化だが寿司は文化ではない。日本食ほど発酵なものはないが、今の醤油はゴミ。菌類がわれわれの体に生きて入った後も、醸し出して豊かな栄養を作ってくれるのが本当

の食文化。食文化の仕組みを考える上では、文化という言葉が生きる。菌が働いて米が化ける。大豆が化ける。発酵のすごさを示している。

では「文化の日」の文化は？ 文化センターの文化、日本文化、アメリカ文化、津軽文化、新座文化を考えた時に「化ける」が大事な本質を教えてくれる。日本文化は何かを突き詰めていくと、日本語という言葉があって、鹿児島には鹿児島の言葉、青森には南部と津軽の言葉と、たくさんの地域の言葉がある。もちろん地域に根ざした言葉があって、標準語の箱に収める必要は全くないけれど、これが言ってみれば言語菌。納豆菌、麴菌、言語菌というものがあって、この言語菌、言葉菌が僕らの生活の中で豊かに発酵していく。

みんなが使っているうちに、色々なものが醸し出される。醸し出されたものが唄、詩歌、短歌、自由詩になっていく。それが謡曲の唄になっていく。言葉が言葉から離れて、豊かな染め物の文化を生み出す、豊かな建築の文化を生み出す、豊かな焼き物の文化を生み出す、みんなそれぞれ出てくるものは言葉じゃない。日本の瀬戸物の文化は言葉じゃないが、日本語という単語が、生活の中で作用して、醸し出されて形になったもの。みんな日本語の言葉菌の働きを受けている。

日本文化であるということは日本語の菌。菌のような言語が発酵し作用を加えている。大豆が納豆に変わっていく、米が日本酒に変わっていく、出てきたものは言葉のままではないが、みんな言葉が化ける力をもらっている。

10 数年間否定していた「文化」が、言葉が化けるという意味だと気がついて大好きになり、喜んで文化人を名乗っている。言葉を化けさせる専門家だ。言葉を化けさせて、それを言葉じゃないものに変わっていく。それが日本語の中から生まれたものだから、日本文化と言える。やっと Culture という人間が生み出し、人間だけが作るものが何かを、菌の役割を果たしているか見えてきた。やっと文化の言葉を読み解いた時、自分の母国語 Culture が少しわかった。「醸し出す」、それがみな日本語の中でやっている協働作業です。

### ●アーサー菌の発酵と使命

僕らは日本社会の中で、政治や経済においても、市民として生活者として、何かやる時にまさに発酵のような作業、影響を及ぼそうとしている。文化人と呼ばれる人は文化に関わって、専門的にやっている人は何をやらなくてはいけないか、文化という言葉を理解できた時にちよっと見えてきた。

言葉の菌を扱っている専門家、詩人が言葉をつくる、言葉が僕から離れて絵本になり、定価が付いたときに、僕の生み出した言葉が離れて社会の中で経済の中で動き出す。その言葉がどういうものを醸し出すか、それが僕の責任。コントロール出来ないかもしれないが、ある程度自分が社会に送り出している、そこで発酵させようとしている言葉が、菌として日本の社会で豊かな滋養豊富なものを生み出すのか、有害な毒素になっていくのか。菌の中には腐らせる菌もあるし滋養

豊富なものを生み出す菌もある。

米を炊いてご飯にして、暖かいところに置いたら日本酒になる。コタツにおにぎりを3日間置いて食べてごらん。食べられたものじゃない。ムカツとくる。それも菌の働き。菌が一生懸命腐らせる。どの菌もすばらしい栄養素たっぷりなものを生み出すかっていうとそうじゃなく、腐敗の働きをする菌もある。僕らにとって毒素を生み出す菌もある。

豊かな日本酒や味噌を造るために、麴室で麴屋さんが色々工夫し気をつけて、厳しい環境の中で、麴菌にとって一番心地のいい発酵しやすい場を提供する。それを麴室という。

僕も文化人、文学者として言葉菌の発酵をどう豊かにしていくのか、それが僕の仕事です。今日僕がしゃべった言葉を僕自身全部把握している訳じゃないし、これからどういうふうに皆さんの中に、体内に入ってアーサー菌が有毒なものになるか、豊かな滋養豊富なものを生み出すのか、自分の言葉が社会の中で、みんなの生活の中で豊かさや繋がることを僕は考えて、そういう言葉をどういうふうに生み出せるかを考えている。

同時に文化人がやらなければいけない大事な仕事があって、それは有害な菌を、どう考えてもこれは豊かさやみんなの生活の反映と幸福に繋がらないはずの菌を、自分が専門家として見つけた時に、その菌をどうやって無毒化するか、あるいは無力なものにするか。毒素たっぷりの腐敗、社会の腐敗、日本語の腐敗、日本文化の腐敗を招くような菌を、どういうふうに対処するのか、僕だけではなくて文

学者は皆そういう使命を帯びている。

日本に来て24年経って、英語の中で過ごした年数よりも、日本語の中で過ごす年数が多い。日本語が腐ったり、日本文化が衰退したり、日本語が毒素たっぷりの菌で劣化していることは、僕にとっては致命的な大打撃。僕の今まで作った作品、翻訳作品を含めて7割くらいは日本語。日本語が駄目になって日本が腐っていったら、日本文化が続かない、日本語そのものが危うくなると、自分の今までやってきた日本語菌の仕事が全部無意味になってしまう。

だから日本語がどうなるか、僕にとって命と同じくらい大事な問題。だから時には政治のことを語ったり、時には専門ではないのに物理学の話をする。専門ではないのに日本経済、世界経済の話をして、そういうときは割と厳しいことを言う。どうしてかという、これは全て言葉の問題だから。

### ●有害な三文字ローマ字菌

TPPのような有害な三文字ローマ字菌。日本語は大雑把な言い方をすると、69年間の間にたくさんの三文字ローマ字毒素菌にずっとやられっぱなし。その元祖がGHQなんですね。GHQから始まってNHKもあって、あげくにはTPPまできちやっている。NSCね、日本版NSCなんて言っている。安倍政権はこういう毒素たっぷりの三文字ローマ字菌大好き。

日本語がこれからどうなろうと知ったこっちゃない、というのが安倍政権のあべこべ日本語政策なので、こういう言葉と戦うことは何も専門外の僕が、詩人が

好きこのんで活動家みたいなことをやっているということではない。これは言葉の問題、僕にとっては道具箱であり、担当している日本語菌に対する攻撃。

TPPから生まれる豊かな日本文化は一つもない。TPPからどういうのが生まれるんですか？ この菌は皆さんの生活にどういう豊かさを生み出すと思っている？ 豊かさは一切出てこなくて何が出てくるかという、この東京の辛うじて残っている農業が全滅するってこと。

清瀬も新座も、辛うじて残っている大根畑もアウト。これがTPP。

日本文化を根こそぎ全滅に導く有害な菌。こういう腐敗を招く菌と戦うのが詩人の仕事だと思う。こういう菌を見抜くためには、僕らはもう少し過去の菌の言葉菌の働きをちゃんと見つめないといけないうんじやないかという気がする。GHQからを含めて。

### ●文化の日とブルーインパルス

今日は「文化の日」なので、こういう文化のこともずっと考えてきたんですが、同じ埼玉県の入間で「文化の日」に合わせて入間航空祭が開かれています。自衛隊の基地で航空祭が今丁度この時刻、盛んに戦闘機が飛び交って曲芸飛行をやっていると思います。

ミス航空祭パレードもある。ミス航空祭になるために、どのくらい脱がないといけないのか。武器の展示も飛び道具を並べて見てもらうという企画もあるらしい。今は武器と言わなくて装備品という。装備品の展示、ミス航空祭パレードと発表会、ブルーインパルスによる曲芸飛行

もある。

ブルーインパルスってどういう意味があるかご存じですか？ 曲芸飛行と言うが、今日は曲芸、明日は必殺の戦闘機技。曲芸は見せるためのもので、アフガン上空では大量虐殺の飛び方になるよね。曲芸ってくせ者の言葉だね。

ブルーインパルスって？ あのパイロット達が憂鬱だったらブルーインパルスは衝撃だったり衝動だったりする。衝動買いはインパルスショッピングっていう。戦闘機をアメリカから言い値で衝動買いしちゃったからインパルス？ 後で考えたら憂鬱になっちゃってブルーインパルス？ インパルスは衝撃だったり衝動だったりするけれど言葉としてはちよっと弱い感じがする。どこか想定ではないような感じもある。あまり強いイメージでもない。

これは誰が付けたと思いますか？

自衛隊の幹部？ 誰の命令で動く？ 防衛庁？ 誰の命令を聞く？ おそらく日本の自衛隊の幹部が、米政府国防総省に無断で独自に決めたネーミングではないと強く感じる。どうしてかという、ブルーインパルスのパイロット達が乗っている戦闘機よりも、もっとカッコよくて、もっと技術的に進んで、もっと値のはる、もっとカッコいい飛行機に乗っているアメリカの軍隊の曲芸飛行をやっている連中の名前は何か？

アメリカのサンフランシスコ上空を飛んだり、基地の航空祭で飛んだり同じことをもっと派手に、もっと轟音を出して、もっとすごい飛行機で、もっと大胆にやっている組織は何ですか？ わかる人い

たら本を差し上げます。こういうときクイズ出して商品が無いと誰も答えてくれない。アメリカで見たことない？ もっとすごいんだよ。日本に来ると反感買うから来ないけど、「ブルーエンジェルス」青い天使達。青い飛行機の塗料の塗り方からして、ブルーインパルスより一段とカッコよく塗っている。

名前も一段ランク上、飛行機もランク上。その明らかな下っ端の組織がブルーインパルス。今一つさえない名前の、日本の自衛隊の曲芸飛行も同じブルー。親会社子会社や師匠が下っ端に自分の名前の一文字を与えたりするのと同じ。

「ブルーエンジェル」カッコいいじゃないですか、青い天使達。そういう名前だが、中を空けてみるとやっていることは悪魔ですね。「ブルーエンジェルス」の下請けの象徴として、名前まで数まで揃えている。同じ音数で完全に子分として作っている組織がブルーインパルス。入間で飛んでいるヤツをみるよりはカリフォルニアに行って本当の悪魔を見る方がいい。

### ●日本のこと何も知らなかった

50年前の入間の基地でどういうことが起きていたのか、皆様ご存じですか？ 今からさかのぼって半世紀前のこの時期、1964年12月上旬。僕はそのことを何も知らないで育って日本に来て、日本の歴史も何も知らないし、日本国憲法が戦争を放棄して、戦争を禁じていることも知らずに日本に来て、日本と母国の戦争がどういうことだったか、ということも具体的に知らずにきた。

日本について余り興味もなかった。日本語をやるつもりはなくて、大学で英米文学をやっていた。イタリア語を途中で覚えて使ったり翻訳したりしていたけれど、日本に来ることは発想していなかった。大学4年で卒論書いている間に、たまたま日本語について書かれている論文を読んで、「日本語って変わっている言語だ」と思って、何で漢字・ひらがな・カタカナがあって、なんで3つの文字を使っているんだろうって。

音を表す文字がアルファベット一つで済むはずなのに訳からないと思って、気になって調べたらもっと気になって、日本人ておかしいんじゃないかと思って、だんだん面白くなって、漢字にすごく興味を持ったんだけど、漢字から作られたカタカナやひらがなも面白くなっていくうちに、卒論を仕上げて卒業する時期になった。

その後大学院に行って、英米文学をやって、英語で詩を書くつもりだったが、日本語が気になりすぎて道を踏み外して日本に来た。だから池袋に住み着いちゃった。ちゃんと調べたら京都とかに行くんだよね。鹿児島に行きたかった…、津軽地方でも良かった。池袋に住み着いて、こういう池袋弁になっちゃった。

### ●アメリカ史の定説「ヒロシマ」

その時は何も知らない。日本の歴史、もちろん「ヒロシマ」という言葉、「ナガサキ」という言葉は知っていた。でも中身は知らない。ただ原爆を使ったということは、学校の歴史の授業で教わった。

ヒロシマは英語で地名よりも原爆を使ったという意味になる。アメリカの学校で教えている歴史の定説で言うと、戦争を終わらせるために必要だった。しかも、早く終わらせて人命を救うために作った。ヒロシマとナガサキに原爆を1発ずつ投下したことで、戦争が早く終わったから、原爆投下は正しかったし、必要だったし、原爆投下のおかげで戦争が早く終わって米兵もたくさん死なずにすんだ。日本人だって戦争が早く終わったことですから日本人も助かっているから、これは正しかったし必要だったという教え方。

その歴史の定説は、アメリカのミシガンの学校で中学生の時教わって、高校の時もオハイオ州の学校で教わって、僕は学校で言っていることは大体うさんくさいなどという基本的な疑いの思考回路を持っていたけれど、これについて深く自分で調べて考えることはしなかった。日本に来た時は信じ込んでいたわけではないけれど、知識のない中でヒロシマとナガサキで戦争が終わったって。

1945年8月6日と9日。この原爆投下があって2発使われて45年の8月、大打撃で日本の敗戦が決定的になって、日本が戦争に負けたのはそこで決まったって。日本国憲法も何も知らないまま来て、何となくそれだけ頭に入っていた。

### ●池袋坂下商店街の人々

何も調べないで成田に来た。僕は東京行きの飛行機に乗って、デトロイトから直行便があったから東京に行くつもりだったけれど、空港に着いたらド田舎じゃない？ これ東京かよ〜って思ったら、

千葉だったんだ。成田がどこにあるか知らないで、先輩が教えてくれたボーグに電話かけたら、運良く出てくれて、当時は携帯なんてないから家にいて泊めてくれるとなって、池袋に住み着いちゃった。そこから始まった。

僕は生活の拠点が全部池袋にあった。アルバイト先も外人ハウスからアパートを見つけようと思って、池袋の坂下商店街の一角にあるぼろアパートの六畳一間、風呂なしを借りて毎晩銭湯に通った。坂下通り商店街の店が自分の生活の糧を得る場になって、八百屋に行くとき買い物する前に、ずっと野菜のこと根掘り葉掘り聞いて、八百吉のイノハナさんが辛抱強くつきあってくれた。300円のリングを売するのに30分店先授業やんなきゃいけない。八百吉さんで野菜のことを覚えて、魚大さんのお母さんから魚のこといっぱい教わって、樋口豆腐店のおばあちゃんから、どれほどの言葉を盗んだか、言葉の万引きやっているような感じ。

それぞれの店で言葉を教わり、会話しながら、少しずつ日本語が出来るようになって、豆腐屋のお母さんや魚屋の親父さんとか、みんなと話しているとだんだん親しくなって「お一元気か」って。日本に来たのは1990年の6月だったけれど、秋が深まってくると寒い日もあって、閉店ぎりぎりに買い物に行くと「まあ、上がんない」とおでんが出てきたりして、こたつに入っておじさんと酒飲んだりする。ふだん店先には出てこないような話が出てくる。例えば1990年からさかのぼって45年前にみんなが体験した空襲の話とか出てくる。

## ●東京大空襲と焼夷弾

八百屋のおじいさんやお習字の先生のお母さんも池袋で空襲体験した。いろいろな体験を皆が持っていたので、親しくなっていて一緒に酒を飲んだりすると、いろいろな話が出てきてね。

たぶん、低空飛行で来た飛行機にやられそうになった人は、僕の顔を見ただけでパイロットの顔を思い出して、また米軍が店に来たという感じで、フラッシュバックもあったと思う。みんなと親しくなって、そこで聞いた話は僕のまったく知らない歴史。

それまでアメリカの歴史の定説を浴びせられていたので、池袋に住み着いて日本語を学びだしたら、僕の知らないこといっぱい出てくる。この字「夷」えびすという。この言葉も知らなかった。日本語学校の授業でも出てこない。でも八百屋のおじいさんと話していると出てくる。酒屋の親父さんが紙に書いて教えてくれた。「えびす」という読み方は後で知ったが、この字はどの人の体験聞いても出てくる「焼夷弾（しょういだん）」。

焼夷弾って知らない日本語だし、和英辞典で引いても、馴染みのない英語が出てくる。「incendiary bomb」incendiaryという言葉は火を付ける、火を放って燃やす、良く燃える、良く燃やす。まさに焼夷弾は焼夷材が入っていて、焼夷というものを狙いとして作っているから、一応言葉として合っているけれど、英語の中で生活していた池袋に来るまでの22年の間に余り使ったことがない。自分の具体的な記憶とか場面と繋がらない。意味はわかるが知らない。

焼夷弾の話はアメリカにいる時は聞いていない。それだけではなく焼夷弾が東京に大量に降ってきたのは1945年の8月6日、9日じゃなく、3月10日で、その日東京のかなりの面積が焼かれて、一夜にして10万人が焼き殺されたという話はそこで初めて聞いた。

45年3月っていったら原爆より5ヶ月も前、その時に既に東京という、大日本帝国の首都の広大な面積が焼かれて、市民が10万人も一夜にして焼き殺されているってことは全く知らずに育って、それを聞いた時に啞然とした。

東京は3月上旬に焼かれているのに何で8月まで戦争が続くのか？ 何でこの8月6日、9日、9月のサンフランシスコ条約受託、歴史の流れがそうなっているのか、この5ヶ月間に何をしているのかって言うことが、最初の疑問として湧いてきた。

みんなが具体的に自分の家がどう焼かれたか、自分の隣の人が死んだ、自分が川に飛び込んだ、裸で川越街道へ必死で逃げていった、燃えていく街を遠くから見ている、自分はギリギリで助かったという話をみんなが語るから、自分の生活の場である池袋がどうなったかというの、日本語の中で体験者と向き合いながら聞いた。

### ●知らなかった歴史の事実

自分の知らない歴史がそこにあった。自分の知らない焼夷弾という言葉もそこにリアリティを持った。ホントに恐ろしさと一緒に僕に伝わった。ぼくの中で8月6日9日と、3月10日の時間のギャッ

プがどうしても不思議でおかしいと思ったので、地図を広げて東京大空襲という名前が付いている、一夜にして10万人が焼き殺された時の焼かれた所を見ただすね。

僕はアメリカに生まれ育って、第2次世界大戦は正義の味方である米国と、悪の帝国である日本との戦いで、必死に戦争して1945年の8月6日9日に原爆投下のおかげでやっと悪の帝国が「参った」と言って終わったと教わったが、もし1945年3月10日に、母国の軍隊が東京という大日本帝国の首都を焼いているならば、当然焼くところはこれだろうと思った。地図を広げてみた。どこを焼いたか。10万人を殺しているからかなりの面積。

皆さん具体的に地図で見たことないかもしれないけれど、もし僕らが時代をさかのぼって、アメリカ陸軍省の軍事作戦をプランニングするスタッフだったら、皆さんどこを焼きますか？ 「皇居・永田町・霞ヶ関」、何の疑問も無く決まっちゃう。皇居、永田町、第一生命ビル、兜町、銀座もね。

地図を広げてどこが焼かれたか確かめたとき啞然としちゃった。「荒川・葛飾・足立区、江東区」のあの辺、そこにどういいう大金持ちと、どういいうお偉方が住んでいるんですか？ 庶民だけです。「庶民」と素敵な言い方してるけれど、もっとわかりやすく言うと貧乏人だよ。

権力者は一人もいない。軍事産業の巨大な企業のトップにいる財閥のトップは一人もいない。貴族・皇族・権力を握っている人たちは誰もいない。日本の戦争マシンの中で機能している人は一人もい

ない。そこにいたのは庶民、普通の生活者。それを米軍が意図的に狙い撃ちで権力の中枢にいる人たちをはずして、庶民を狙って10万人を一夜にして焼き殺してるんですよ？

「戦争」じゃ無い。これは「大量虐殺」であり、「メッセージ」を送っている。誰に？ 永田町・皇居・兜町その辺の日本の国体、権力の中枢にいる人たちに「どうだ、言うことを聞くか？ 国体の護持の後に完全に奴隷になって、俺たちの下請けになるか？ それともお前らの所も焼いてやるか？ どっちがいいか」というメッセージ。

戦争じゃなくて、一つのコミュニケーションをとっている。米政府と日本政府の大事な話し合いが、10万人の死体の上で行われた。飛行機に乗って日本の下町、生活者を狙い撃ちして、焼夷弾を雨と降らせて飛んでいった爆撃機の乗組員は語っている。落とす側の計画はものすごく綿密に細かいところまで詰めていて、最初に飛んできた爆撃機は、まず焼夷弾を落として円を作る。後から飛んできた飛行機は少しずつ丸を狭めていく。少しずつ中へ中へ。最初に外に逃げれば助かったが中へ中へ狭めていったので、焼かれて焼かれて最後は真ん中に落として10万人が死んだ。飛行機は1500メートル位のところを飛んでいるが、人肉の焼けるにおいが上空まで昇ってきて、吐きながら落としていったそう。

歴史の定説とどう考えても噛み合わない。日本各地46、7の地方都市も焼かれて50万人位が焼き殺されているんです。「庶民50万人焼き殺して、500万人の家

を奪って、何やっているの？」というメッセージを日本権力者に送っている。原爆だってヒロシマ・ナガサキの遠いところに落としている。

「朕深く世界の大勢と帝国の現状とに鑑み、非常の措置を以て時局を收拾せむと欲し、茲に忠良なる爾臣民に告ぐ。」という国体が護持される発表が8月15日にされた。全部話し合いが済んでいるから。10万人の死体をまたいで50万人の死体を踏みづけにして、それで国体の護持も決まっていく。それが焼夷弾という言葉から見えてきた、自分の知らない歴史の現実なんですね。

そしてもう一つ知ったのは、その焼夷弾を東京、大阪、鹿児島、青森、全国津々浦々に降らせた張本人、「カーチス・ルメイ」は、軍中枢にいて日本の空爆空襲を全て計画指揮して、決定権を持っていたが、戦後、日本に招かれて、今から50年前1964年12月7日、真珠湾攻撃の日と重ねて、入間の基地で日本政府から勲章を贈られている。「勲一等旭日大綬章」という日本最高の勲章。理由は日本の航空自衛隊育成に協力があったため。

この勲章をルメイに手渡せる意味がわからない。僕の国家の理解を超えている。これほど侮辱的な奴隷的な表現法があるのか？ なかなか越えられないハードルです。本当に吐き気がするような歴史的事実ですが余り語られない。

1964年のその年を振り返ると、超特急のひかり号が走り出した。東京オリンピックがありましたね。いざなぎ景気でみんな浮かれて、経済が良くなった、所得倍增計画という池田勇人首相にまんまと

引っかかった。

「三種の神器」は伊勢神宮とは関係なく「洗濯機・冷蔵庫・テレビ」。いざなぎの尊(みこと)は格下げされて、一時的な好景気を表す言葉になっていく。

別に日の丸を掲げて国粹主義に走ることがいいとは思わないし、軍国主義は星条旗の下で行われても、日の丸の下で行われても、ドイツの鍵十字の下で行われても、イスラエルの6本の棘のある星の下で行われても、軍国主義が問題であって、文化の問題じゃない。文化と軍国主義を切り離して歴史をちゃんと見つめて、事実と自分たちの生活、自分たちが作り出している政府が何をやっているか見ないといけない。オリンピックをTVで見ている場合じゃない。

陰では日本政府が日本を全部売り渡しちゃっている。東京大空襲から20年も立っていないのに、東京大空襲をやった張本人に勲章与えるなんて、これは僕らがもう一回味噌汁で顔洗って出直して頑張らなくちゃ駄目なんです。歴史として失格です。

### ●Napalm(ナパーム)=焼夷弾

生まれてないけれど後で知って、これは日本語の問題だって思った。焼夷弾はホントに重要なことを教えてくれた菌だった。焼夷弾という言葉はどうにも消化できなくて「夷」を焼くことが焼夷弾なのか。不思議でしょう。焼夷弾が夷を焼くことだったら、東京の人が野蛮人という意味になるけれど、どうやらそういうことじゃなく、この字は何かをし尽くす、つまり焼き尽くす爆弾。

焼夷弾は全国の大空襲で使われて、多くの人が実体験として理解しているから、具体的な意味をもった言葉として日本語に根付いていた。

焼夷弾って和英辞典で調べると「Incendiary Bomb」という。意味はわかるけれど、生活の中で使ったことはなかったし、自分の中で歴史と繋がることはなかったから、変だなと思っていた。あれだけ東京で一夜にして10万人を殺した武器、装置だったら、もうちょっと英語の中で、それをもちこんだ側の国の言葉として、何かなじみがあるはずだ。ハリウッド映画で出会ったとしても、何かそのような場面で出てくるはずだと思っていた。

もっと焼夷弾のことを英語の資料と比較しながら調べていたら出てきた、「Napalm bomb」。「Napalm bomb」と言われればすぐにイメージが湧く。もちろん、デトロイトのわが家に降ってきたことないですよ。使われたことないんだけど、実演の映像も見たことあったし、インドシナ半島で大量に使われたことも映像で見たことあるし、話を聞いている。使った軍人の話も22歳の時には既に聞いていた。

「Napalm bomb」なら既に知っていた。第二次世界大戦よりもベトナム戦争と繋げる形で知っていた。聞いたことありますか？ 「ナパーム弾」ですが、どこで使われました？ベトナム戦争で使われました。焼夷弾とナパーム弾の違いはわかりますか？ 漢字とカタカナの違いです。それだけです。

「Napalm」という言葉はナフサ石油を

精製してガソリンになるちょっと前のものですが、すさまじく燃えるものです。それとパーム油（椰子の油）を混ぜてべたついて焼き尽くす仕組みなので、焼夷弾はナフサとパーム油を混ぜて最初に使ったから「Napalm bomb」という言葉になった。

新種の兵器が最初に実演で破壊力が示されたのが、1942年にハーバード大学運動場で、米軍の税金を秘密裏にを使って開発していた科学者と技師達が実演して、これはアジアの人々の生活の現場、木造の家、街を焼き尽くすのに役立つだろうから、大々的に開発して作りましようとなった。

最初の実演が上手くいって、予算が付いて開発していったんですね。「Napalm bomb」という名前と呼んでいた。ナフサとパーム油を合体させた名前なんだけれど、後に違う物質も使われて、焼く装置もいろいろあって、電気も使ったりして、いろんな種類が作られたけれど、基本的には「Napalm bomb」と呼ばれた。更に技術が進んで1943、44年になると、具体的にどこを焼くか標的が決まって、日本の街を焼くとなった。

効率的にたくさんの人を焼き殺すにはどうすればいいか考えられた。アメリカの過疎化が進んでいる街を軍が摂取して、人を追い出して街を焼いてみる。一番火を放つ装置を選ぶ。でもアメリカの街を焼くわけではなく、葛飾や足立の人を焼くんだから、足立の町並みをアメリカの砂漠に再現して日本家屋を建てる。

西海岸から日系の職人を呼んで、畳職人まで呼んできれいな畳を敷いて、ナパ

ーム弾のいろんな種類を試した。焼いてはまた建てて…。一番いいものを一つの筒の中に32本、上空で火を付けながらばらまく。それが効率的に多くの人を殺すことに。

焼夷弾が東京の人を焼き殺すことになって、45年になると大量に「Napalm bomb」が使われた。でも日本語では「Napalm bomb」と言わない、焼夷弾と言う。焼夷弾を日本の津々浦々で大量に降らせて、その後、原爆まで使って玉音放送が流れて、戦争が終わることになる。

### ●戦争をしないと成り立たない国

それから少し経つと、合衆国はならず者帝国に変わっているし、核まで作ったから、軍需産業が国家を乗っ取るような国家に化けてしまったので、第二次世界大戦をやった後、米政府は公共事業として、定期的に戦争をやらないと成り立たなくなった。次は朝鮮でやることになる。

その公共事業として米軍の巨大な軍産複合体が動き出して、朝鮮半島に焼夷弾を振らせる。朝鮮半島に降らせたものは日本全国で使ったものの確か5倍。その焼夷弾はどこから飛び立ったかという、入間だったり沖縄だったり、日本中の基地ですよ。その焼夷弾をきれいに磨いて、飛行機に燃料を入れているのは日本人、手を振って見送るのは日本人。朝鮮半島に焼夷弾を日本の5倍くらい降らせることで、日本の経済が良くなって神武景気となる。神武天皇以来の景気だから神武景気っていう。

日本の平和主義って大好き…。平和国家として立派に69年頑張ってきましたね。

整備工場として軍事産業の下請けの下端の孫請けとして。でも朝鮮半島に降らせる時は何やっているか、ただ景気が良くて朝鮮特需ですよ。

次に米政府が仕掛けたのはインドシナ半島。ベトナムを中心とした公共事業。そのベトナムでやる戦争はまた「Napalm bomb」。「枯れ葉剤」も大量にまくんですが、ベトナムに大量にまいてぼろもうけして、あまりにも儲かったから、戦争が終わったらもったいないから、枯れ葉剤を除草剤として遺伝子組み換え技術を開発して、園芸店に行くと蘭バットのコーナーがある。ベトナム戦争続くよ、どこまでも。

でも枯れ葉剤よりも多く降らせたのは「Napalm bomb」。「Napalm bomb」も毎日インドシナ半島の人々の生活を破壊する装置として、みんなを焼き殺して生き残った人たちの生活手段を奪う武器として、ずっと降らしていた。その時も日本は整備工場、それでいざなぎ景気。そのときに報道も独立系のジャーナリストも動いているし、ベ平連という市民の戦いもあるし、いろんな人が情報を流しているので、焼夷弾という言葉がベトナムで起きていることを語る単語として、みんなの口に目に意識の中に入ってくると、ちょっとヤバイ、という判断がどこかであった。

どうしてかという、どういうわけか言葉の魔法として、自然界ではあり得ないような言葉が化ける一つの実例として、日本語に根ざしていた「焼夷弾」が、ある日を境に「ナパーム弾」になった。誰がきめたかはわからない。でもナパーム

弾という言い方が、焼夷弾なんですよ。

もちろん人殺しの技術は日進月歩なので、毎日せっせとぼろもうけしながら、軍需産業の詐欺師たちが作っていくから。

葛飾区に降らせた「Napalm bomb」とインドシナ半島で使っていた「Napalm bomb」の威力は違うよ。すごく進歩している。使っている物質も変わっている。でも呼び名は別に変わる必要ない。焼夷材を使った焼夷弾。ところが誰かが決めて、ある日からマスコミは、ベトナムの話をする時は焼夷弾と言わずナパーム弾と言うようになった。

何でそう言うようになったかという、これは僕の解釈ですが、焼夷弾と言ったら繋がるでしょ？ 自分の体験と。20年たって東京大空襲を体験した人、鹿児島大空襲を体験した人、熊谷の大空襲を体験した人、青森の大空襲を体験した人が、今ベトナムに焼夷弾が大量に降ってる、しかも量でいうと、日本津々浦々で使われたトータルの焼夷弾の10倍、朝鮮半島も2倍、僕の記憶が間違っていなければ。ですから焼夷弾が現にこの瞬間、ベトナムの人々の生活に、ベトナムの人々のお寺に家と店と畑に降っているんだということと言うと、下手すると池袋の八百屋のおじいさんがベ平連に入って立ち上がる。

焼夷弾という、焼夷弾が自分の体験とつながっている人は無関心でいられない。いざなぎ景気といっていられない。すばらしい日本の経済成長、東京オリンピックの夢がすばらしいなんて言っていられない。時代を見据える言葉は、なるべく皆が現実を見ることが出来ないよう

にするのが、マスコミの仕事。カタカナにしたらくわからない。焼夷弾と言ったら繋がっちゃうけれどナパーム弾と言ったらナタデココなのか何なのかわからない。

### ●事実を伝える言葉「ピカ」

どうやって言葉をちゃんと現実を捉えるレンズとして使うか。言葉の化け方を見てみると大ざっぱに言うと二つに分けられる。一つは生活ともに少しずつ変化する。もう一つ僕らが注意深く、鋭く捉えなければならぬのが、意図的にある勢力が意図的に変える。TPP もまさに後者、三文字ローマ字バイ菌、ナパーム弾も狙い撃ちでやられた実例。そうやってやられてしまうと、いつの間にか戦争犯罪人が表彰される。僕らが屈辱もわからなくなってしまう。

8月6日と9日を見抜くためにも言葉をかぎ分ける必要がある。最初、大空襲は3月10日であり、東京という首都が焼かれていることを知って、意図的に外してそれがなんなのかということが僕の最初の疑問。

それから何年か経って初めて広島に行った。広島という地名よりも、原爆が使われた場所というイメージがあって、広島にいたら色々見えて来るかと思って行ったが、まさか母国のペテンを見抜くレンズをそこで貰うとは思わなかった。

記念資料館に行って、女性の被爆者体験を聞いた。原子爆弾とか原爆、英語から直訳した核兵器などは知っていた。その時、広島で直接話を聞かせてくれた人は、僕の知っている原爆などの言葉を使

わなかった。そのとき教えてもらったのは「ピカ」という言葉。東京大空襲の話では聞かなかった。絵本の広島のピカも出会っていなかった。体験とともにピカということを手渡された。友だちに広島のことを話す時に、原子爆弾と言わず「ピカ」と言った。

僕の悪い癖だが、新しい言葉を手に入れるとすぐに使いたくなる。よくわからないので使っちゃう。問題発言したりするんですが。お金も手に入るとすぐに使っちゃう。

言葉は菌のような存在だから、言葉は使えば使うほど増える。お金は残念ながら減っちゃう。言葉は使ったら自分のものになる。しかも元気になって、失敗したり反省したりもあるが使ってわかる。余り深く考えずに「ピカ」を使ったら何かが違う。感覚的な違いだけでなく、なにかが違う。それから「ピカ」という言葉と向き合って20年近く経っていますが、この「ピカ」という言葉を使うと立ち位置が変わる。

同じ広島上空で引き起こされたウラン235の核分裂をとらえても、原爆という立ち位置はエノラゲイから見下ろしている、キノコ雲をみている。核兵器という立ち位置はもっと遠いホワイトハウスから珈琲をすすりながら見ているようなもの。遠い上から目線で今の米政府とか日本政府が使っている。「ピカ」という立ち位置は、あいおい橋の上で上空から閃光と熱線を体験する側、つまり暗闇の地獄を見ている、全部違う。それが言葉に組み込まれてるんだということ、広島を被爆者から教わった。使ってみてわか

った。

どこに立つかによって見える現実が違  
う。どこに立ちたいかによって言葉が  
変わるし、言葉によって立ち位置が  
変わる。自分の生活、国家の中に置  
かれている状況、立ち位置からす  
ると「ピカ」に立っている。つまり  
風下に立っている。

8月6日にケネディ駐日大使が  
広島に来たが、被爆者に会わずに、  
誰の話も聞かずに、薬にも毒にも  
ならない記念式典に出ただけで、  
他に何もせず東京に戻った。ケ  
ネディ様をそのまま演じているん  
ですよ。立ち位置はケネディ様の  
立ち位置なんです。

### ●「ピカ」の立ち位置

我々は「ピカ」の立ち位置なんです。  
この「ピカ」という言葉は誰が  
作った？ 1945年8月5日には  
存在しない。もちろん日本語には  
ピカピカなどの擬態語としてあ  
ったが、8月6日の朝、核分裂の  
連鎖反応にさらされて、自分の  
細胞をずたずたにきられて、皮  
膚を焼かれて、体内にセシウム  
やストロンチウムが潜り込んだ  
人たちが、自分の肉体を元にピ  
カドンを作った。この言葉には  
立ち位置、みんなの体験の根っ  
こが組み込まれている。

だから僕らがこの言葉を使う  
ことで、僕らも一緒に立つことが  
出来る。三日後の浦上天主堂に  
立つ。その立ち位置を醸し出す  
日本語菌として、ピカは根っこ  
を持って作用する。どれを使う  
かは自由。エノラゲイに乗って  
上から見れば原爆を使って構わ  
ない。自分が使っている言葉と、  
自分が見える光景、立ち位置が

繋がっていることは、ちゃんと  
意識して使わなければならない。  
自分たちが使っていないと逆  
に使われて振り回され騙される。  
ナパーム弾の言い換えはそれ  
を見事に雄弁に語っている。

僕らがそれを見抜くことが  
出来れば、ベトナム戦争・い  
ざなぎ景気・東京オリンピック  
の、その当時のペテンを食  
い止めることが出来たかもし  
れない。「ピカ」は広島の体  
験者が作った立ち位置を醸し  
出す。どれを使うかみな自由  
であるが、自分が使っている  
言葉の立ち位置を把握して  
使う。そうしないと逆に使  
われてだまされる。

いま、僕らが食い止めなく  
てはいけないことがたくさん  
ある。安倍政権の言葉を借  
りて今一番大胆に進められる  
政策を言うと、「切れ目のない  
日米同盟」ですね。切れ目の  
ない日本軍と米軍関係。切  
れ目って、僕らは余り日常  
生活で使っていないかもし  
れないが、金の切れ目が縁  
の切れ目とか言うが、いい  
捨て台詞として力強い言  
葉なんです。縁の切れ目と  
金の切れ目を、ちゃんと  
安倍政権が今訴えている、  
PRしている日米関係の切  
れ目のない抑止力、切れ  
目のない対応、切れ目の  
ない安全保障、日米の相  
互協力によって切れ目の  
ない状態を、僕らはち  
ゃんと日本語として見  
抜いて、毒素たっぷりの  
言葉菌なのか、僕らの  
生活に滋養豊富なもの  
を生み出す菌なのか、  
かぎ分ける必要がある。  
僕はずっと匂いをか  
いでいるんですが、臭  
くてどう考えてもど  
ういう鼻を使っても  
インチキ菌だと思う。

安倍政権が4月の1日に  
発表した文章の正式名称も  
「切れ目のない」という言

葉が入っていた。「国の存立を全うし、国民を守るための切れ目のない安全保障法整備について」、この切れ目のないという言葉が何を指しているかという、アメリカ国防総省と自衛隊、米政府と日本政府、日本国内において軍隊と警察、状況を考えた時に有事と平時、この国家の米政府と日本政府の線を消す、切れ目のない状態にする。つまり区別がつかないようにする。米軍と自衛隊の区別がつかない、警察と軍隊の区別を消す、有事と平時の線を消す。その結果どういうふうになるかというやりたい放題となる。

切れ目とはどういうことかという歯止め、線引き。日本は歯止めと線引き大好きな文化でしょ？ アメリカに生まれ育って22歳になって日本に来て、日本に来たら未成年だということ知って、僕「ひつじ」なんて何とも思っていなかったんだけど、もっと可愛がっておけば良かった？ とか。

しかも市川先生から急にプレッシャー掛けられた「来年は年男だから」って言われて、もうどうして良いかわからない。でもそれが区別じゃないですか？ 12年のサイクルで線を引く。大晦日と新年を体験したら、日本の文化の中では去年と今年って1日にして線を引く。アメリカはそんなことない。先週は先週なんですよ、先月は先月なんです。

日本は昨日会った人に「去年はお世話になりました」とか、訳わかんないこという。去年の12月はお会いしましたよね？ 3日前ですよ。去年・今年って線引きが大好きじゃないですか。「去年・今年貫く棒のごときもの」という俳句もあ

るくらいだから、去年・今年が季語になって歳時記にも載っている。

日本に来るまでは自分の履物をそんなに気にしていなかったのですが、日本に来たらあらゆるところに「土足厳禁」という恐ろしい線があるんですよ。それを気がつかずに上がっちゃったら大変、もうパニック。

### ●線を引く言葉の切れ目

日本は線を引く切れ目が大好き。日本国憲法も切れ目が一杯用意してある。戦争をやってはいけないよ、とそこに線を引く。国の交戦権も使わない放棄する、軍隊も持たないっていう。色々なその線引きは庶民の体験も踏まえている。もちろん国家のいろんな詐欺師も関わって、国体の護持も憲法に定まって、日本国憲法が完璧な文章だとは思っていないが、日本国憲法絶対いじってはいけないと神聖視する必要はないけれど、日本国憲法には権力の暴走をくい止める見事な歯止め、見事な切れ目となる線引きがたくさんある。去年と今年の線引きより遙かに力強い線が、例えば憲法9条、25条とかに僕らの生活を守る歯止めとしての切れ目が一杯ある。

安倍政権の最大の使命、安倍政権が今やろうとしていることは、僕らの生活を守るための切れ目、歯止めを全部消して、やりたい放題ならず者国家の奴隷国家を作ること。大日本帝国を独立国家としてやるならまだ100万歩譲ってあり得る。集団的自衛権行使容認は何を狙っているか。日本の自衛隊がアメリカ国防総省が仕掛ける他国への攻撃に加わって、米国

防総省が金を使いたくない時に、代わりに下請けとしてやる。

下請けなのに出張費も自腹を切って払う。飛び道具も言い値で買う。オスプレイもあんな欠陥の未亡人作り機って呼ばれているのを買うんですよ。あまりにも啞然として、石けん作っている友だちにオスプレイ石けん売り出そうよ、自衛隊も買うって言ってるからチャンスだよって。売り文句は僕考えた「良く落ちる!!」って。

オスプレイ・無人偵察機も買うし、ブルーインパルスも言い値でちょっと劣る戦闘機も買わされる。今年の防衛省の予算は概算要求で5兆5千億なんだけれど、安倍政権がこのまま属国の歯止めのない、際限なく軍事費がどんどんどこまでも広がって高まっていく。この流れを僕らが食い止めなければ、今から5年立ったら5兆5千億って、安く済んでいた時代があったなあって。

こういう中で僕らは言葉の切れ目、生活を守る切れ目をはっきりと線引きしながら作らなくてはならない。それが日本文化であり、日本語の力でもある。

### ●憲法は「押しつけ」

日本国憲法を僕らが使って、生活の歯止め、生活の中での権力の歯止め、切れ目として使う時に、一つ気をつけなければいけないことがあって、例えば憲法9条という一部分だけでも同じ問題なんです。憲法9条を大事な文章として、言葉として捉えるとちょっと憲法をはき違えることになる。

もちろん憲法を読むことは大事だし、

言葉としてまず僕らが憲法を考えてここに書いてある、これは講談社が出した文庫本で、この『日本国憲法』を読むことは大切だと思う。言葉を入り口にして捉えることは必要。

だけどこれで憲法だと思ったら大間違い。これは憲法じゃない。これは講談社の本であって、憲法は文章でなく言葉で書いてあるけれど、言葉で終わったら憲法じゃない。言葉で終わったら文化じゃないでしょ？ 言葉が菌として発酵して豊かな滋養豊富なものを醸しだして、初めて文化が生まれるでしょ？

言葉＝文化じゃなくて言葉が作用する。憲法も同じ。憲法は権力に歯止めを掛けるという豊かな力強い文化。憲法は概念。これを使って生まれるものが憲法。大日本帝国憲法、明治憲法と呼ばれているものは憲法でもなんでもなし。大日本帝国憲法は勘違いのかたまりで、憲法の名前に値しないゴミです。あれを読んで憲法だと思ったら、あなたの思考回路も腐敗していきます。憲法はそんなものではない。

アメリカ合衆国憲法はすばらしい憲法ですよ。ワシントン・ジェファソン達が発明で、240年前に作ってくれた憲法。1940年代まで生きていたが、トルーマン政権下でこの憲法は殺されて、今はアメリカに憲法もへったくりもない。今のオバマ政権がやっていることは全て憲法違反。予算の組み方も、戦争のやり方も憲法違反。オバマ政権がやっていることで、憲法に照らし合わせて有効で合法なことはほとんどない。

安倍政権はこの日本国憲法を踏みにじ

って、どんどん憲法違反の現実をつくっている。憲法違反の現実を、国民が文化として許してしまうと憲法は生きてこない。廃棄処分にされる。文章が残ったとしても。僕らは憲法を見る時に、憲法という概念、生きて醸し出された文化を創ることに力を注がなくてはいけない。

よく日本国憲法の話をする時に、「憲法はGHQの下で作られたから、アメリカからの押しつけだ」という人がいる。そうじゃないという人もいる。GHQの押しつけどかを語ることが次元が違う。憲法を何もわかっていない証拠。憲法は全部押しつけなんだよ。憲法は権力者に押しつけて歯止めと切れ目として作用させる装置、概念なの

日本国憲法を読んでご覧。これはGHQにつくれるものじゃないよ。憲法の歴史をさかのぼってみると、マグナカルタに行き着く。1215年にイギリスで作られた文章なんだけど、憲法として働いたのはその時の貴族が、王様の権限に歯止めを掛けたからなんだ。

マグナカルタはイギリスの憲法の原点と言われているが、英語で書かれているわけではなく、ラテン語で書かれた。最初に翻訳されたのはフランス語。押しつけじゃない？ ラテン語のマグナカルタを使っているかという、ローマ帝国の言葉が支配の言語だったから。言うなればマグナカルタも押しつけだし、アメリカ憲法もほとんどイギリスから借りてきたものだから、だからこれも押しつけなんだ。日本国憲法をコスタリカという国家が借りて踏まえて憲法も作っているから押しつけじゃない。

## ●言葉を取り戻す

押しつけとか押しつけじゃないとかではなく、800年分の人類の英知をどういうふうに使って、権力の暴走を食い止めるかという概念。それをちゃんと理解して僕らは憲法の戦いをしなければならない。その憲法の戦いの為には言葉も切れ目、言葉の作用をもっと具体的に捉えないといつの間にか自分達が大事だと思っていることがすり替えられる。

1947年にトルーマン政権の下、「国家安全保障法」という法律が作られた。この法律で狙い撃ちされたのがアメリカ合衆国憲法。その時一番巧みにやった言葉のまやかしは何だったかという、この憲法には戦争の歯止めになる条件が一つ入っていた。それは何かというと、戦争をやる時は宣戦布告を出す、宣戦布告は議会が可決しなければならない。大統領が勝手に戦争をやろうと思っても無理、そのことが憲法に明記してあった。

アメリカの歴史の中でそれが出された最後の戦いは、1941年のドイツと日本に対してしたもの。それが最後の宣戦布告。それ以降朝鮮・インドシナ・中米南米・アフガン・イラク・中東は全部違法。宣戦布告ナシで200回以上やっている戦争は全て違法。何でこんなことができるかという、トルーマン政権下で見事な言葉のマジックをやった。

何をやったかという、憲法をいじるとバレルでしょ？ WARと言う言葉を憲法から消したら国民に見つかるので、憲法をいじらないで、米政府の正式名称からすべて消した。

1947年に戦争省を国防総省に名前を変

えた。国防長官は Secretary of Defense に名前がかわった。アメリカ国防総省は形の五角形にちなんで「ペテンタゴン」というんですね。

67年経って、そして今年の7月1日にあべこべ総理が記者会見をやって何を言ったかという、トルーマンとそっくり同じこと言った。同じコピーライター？みんな死んでるから孫の代かもしれないが、トルーマン政権がやったディフェンス詐欺を日本語に翻訳して生きた。

安倍政権が今やっているのは集団的自衛権。英語に訳すと「collective defense」。ディフェンスじゃない。

トルーマン政権はどうやって200回以上の違法の戦争を言語的に可能にしたかという、戦争と呼ばなければいいでしょ？トルーマン政権は戦争と呼ばずに、「国防」と呼ぶようにしたから戦いが出来た。戦争を国防と呼ばばいい、自衛権といえばいい、軍隊を自衛隊といえばいい、戦車と呼ばず特車と呼ばばいい、駆逐艦を護衛艦と呼ばばいい、名前を変えればいいんです。それをトルーマン政権が1947年に大胆にやって、それを2014年になって安倍政権がその焼き直しを堂々とみんなの前でやってるだけなんです。

安倍政権は戦争を戦争と言わず集団的自衛権、集団的自衛権の受けが余り良くない時には「積極的平和主義」って。でも何をやっているかという侵略戦争の準備。侵略戦争をディフェンスと呼ばば出来るんだということを、アメリカ国防総省を見事に証明して、その子分として、下請けとして、安倍政権が同じインチキ

を言葉でリサイクルしてやっている。

日米同盟において、詐欺のリサイクルの高さはすごい。古い腐った言葉だなどと思うと、それが日本語の中でゾンビのように蘇っている。そういう中で僕らは生活している。その中でどういうふうに戦うかって、言葉を取り戻すところから、始めないといけない。日本語菌、日本語の豊かさを醸しだして、僕らの生活の文化を創る日本語をまさに取り戻して使わなければ使われてします。

皆と一緒に菌の豊かな文化を創って、醸し出して行きたいと思います。

長くなりました。ありがとうございました。

(記録・まとめ／釘持恭江・竹森絹子)

#### アーサー・ビナード

1967年、米・ミシガン州生まれ。詩人、俳人、随筆家。妻は詩人の木坂涼。ニューヨーク州コルゲイト大学で英米文学を学び、1990年に来日、日本語で詩作を始める。2001年詩集『釣り上げては』で中原中也賞、2008年詩集『左右の安全』で山本健吉文学賞を受賞。文化放送のコメンテーターとしても活躍。憲法、平和、原発についての講演活動も行っている。

主な著書は詩集の他に、絵本『ここが家だベンシャーンの第五福竜丸』エッセイ『日本語ぼこりぼこり』『亜米利加にも負けず』他多数。